

「選んで買う」が 支援につながる 毎日のお買い物で変わる熱帯林の未来

世界で最も使われている
植物油です

私たちが普段食べているパン、ポテトチップスや、よく使っているシャンプー、せっけん、口紅。これらの商品に共通して使われているものがあります。何か分かりますか？

答えは
パーム油
です



パーム油は食品やせっけんなどの原材料として使われる植物油で、加工食品では「植物油脂」などと表示されています。スーパーで販売している商品の半分にはパーム油が使われているともいわれています。

※植物油脂の原料は、パーム以外にも菜種、大豆、米、とうもろこしなどがあります

熱帯林とつながる 私たちの生活

パーム油は、赤道直下の熱帯で栽培される「アブラヤシ」という植物の実を搾って作られます。その特徴は、生産性が高く幅広い用途に使用できること。私たちの生活に欠かせない商品に使われているため、世界中でパーム油の需要が伸び続けています。生産しているのは主にインドネシアとマレーシアで、この2カ国で世界の生産量の85%を占めています。



アブラヤシの木。高さは約20m、長いカマで実を切り落とすのは重労働

©Audra Melton WWF-US



アブラヤシの実。果肉と種子それぞれから油が取れる

©James Morgan WWF-International



世界の生産量の85%がインドネシア・マレーシアで生産されている

農園の開発で 熱帯林が消えていく

安く、便利なパーム油を「もつとたくさん使いたい」という消費国の需要が高まり、生産地では農園の開発が今も進んでいます。トラヤゾウ、オランウータンといった絶滅危惧種が多く生息する熱帯林が、アブラヤシ農園を作るために切り開かれています。



©Victor Fidelis Sentosa

インドネシアの熱帯林に生息するオランウータン



©WWF Japan

熱帯林が切り開かれ、アブラヤシ農園に転換されている

特に問題となっているのが、パーム油生産量の40%、300万人以上を占める小規模農家。どこで良い苗を買えばいいか、いつ収穫すればいいか、といった栽培の基本知識が不足しがちで、収穫量が思うように得られない場合もあります。そのため収穫量を増やそうと農園を拡大し、新たな森林破壊を引き起こされる、という悪循環になっているのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

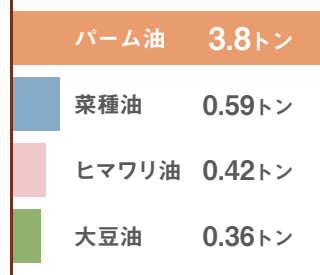


コープは、事業と活動を通して国連「SDGs (持続可能な開発目標)」を支援します。今回の取り組みは、「目標12・つくる責任つかう責任」につながっています。

パーム油をやめればいい？

さまざまな課題を抱えるパーム油、「それなら使うのをやめよう」と考える方もいるかもしれませんが、パーム油のもう一つの特徴が「効率よく」油が取れること。同じ面積あたりの生産量は大豆の10倍で、安く、大量に調達できます。パーム油の代わりとなる植物油を生産しようとすると、さらに広い土地を開発しなければならぬのです。

1ヘクタールの土地からできる植物油の量



また、正しい知識のもとで育てれば農家は十分な収益が得られ、新たに農園を開発する必要はなくなります。パーム油をやめる・別の油に置き換えるのではなく、正しく生

産されたものを選んで買う。それが現地の生産者への支援と熱帯林を守ることにつながるのです。

マークを目印に「選んで買う」

新たに熱帯林を開発することなく、環境に配慮しながら生産されたパーム油を使用した商品には、国際的な非営利組織「RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議 Roundtable on Sustainable Palm Oil）」の認証マークを付けることができます。このマークがついた商品を選んで買うことで、残された熱帯林を守りながら、生産者の生活を応援することができます。



コープは小規模農家を支援しています

さらに、コープが行っているのが「洗剤環境寄付キャンペーン」です。コープの洗剤を1点ご購入いただくごとに0.5円がWWFジャパンに寄付され、インドネシア・ボルネオ島の西カリマンタン州で小規模農家が持続可能な生産を支援するプロジェクトなどに活用されます。

対象商品



店舗では一部を除き取り扱っています



詰替用も対象です

※WWFは、100カ国以上で活動している環境保全団体です

商品がどう作られたのかも考えてほしいです



洗剤環境寄付キャンペーンを担当する株式会社コープクリーン※ 茂垣 達也さん

日本では1960年代に洗剤などによる河川の汚染が社会問題となり、コープは環境に配慮した洗剤を開発しました。地球規模での環境問題を考え、2011年より「洗剤環境寄付キャンペーン」を始めました。2018年は全国で359万円もの寄付が集まり、現地での活動に生かされています。また食品を含めたすべてのコープ商品で、使用するパーム油をRSPO認証に切り替え、洗剤など代表的な商品にマークを付けています。お買い物のとき、商品の味や値段を気にされると思います。が、どう作られたのかも考えてみてください。作った人や環境を考えると商品を選ぶことが、持続可能な世界につながります。

※株コープクリーンは日本生協連の子会社で、コープの洗剤の開発・生産などを担っています

「買うものを選ぶだけで、支援できる活動があります」



WWF ジャパン 自然保護室 伊藤 小百合さん

アブラヤシ農園の開発から貴重な熱帯林を守るためには、小規模農家の方々の協力が欠かせません。農家の皆さんには知識や経験がありません。アブラヤシを密集して植えた結果、収穫量が伸び悩み、資金不足で必要な肥料も購入できなかつたりするのです。収穫量をなんとか増やそうと農園を拡大し、熱帯林が失われるケースがあります。WWFの支援では、熱帯林の貴重さを伝え、限られた面積で最大収穫量を得られる農法を普及します。必要な肥料などを一括購入できるよう、生産者組合も設立します。

農家の人々のくらしが支えられてこそ、熱帯林は守られます。皆さんも、RSPOマークのついた商品を手にとってみるところから、始めてみてください。